

農林水産大臣表彰受賞の喜び

農業委員会会長 田淵 幸孝

この度、はからずも農業委員として農林水産大臣表彰の栄に浴しました。

委員の皆様をはじめ地域の皆様の温かい御指導の賜物と深く感謝致しております。

私が農業委員に選出されたきっかけは、土地改良に関係した事ではないかと思えます。岩常部落の二回目の区長の時、耕地整理の計画を提案し部落より選出されていた町会議員・農業委員・農協理事・消防団長に私の家に寄って戴き話し合いました。そして今迄二度にわたる失敗を反省し、今回はいかなる障害があろうとも一致団

結してやり抜こうと固く誓い合いました。

部落総会の承認を得て二十名の推進委員を選出し、委嘱状を区長名で出し推進委員会を結成致しました。委員会の要望を得て直ちに吉田県議に協力を仰ぎました。其の後、県政懇談会に岩美町の代表として出席する事になり、部落の役員に何を要望しようかと相談致しました。

「小田川に魚が住めるようにして下さい。」と言おうかと思つと、皆がそんな事は可能性がないのではないかと言われたが思い切つて発言致しました。

御承知のように昭和十八年の鳥取大震災により、岩美鉾山の瀬物の堤防が決壊し三千立方メートル余の鉾

泥が流出し、住宅を襲い六十五名の犠牲者を出し下流の小田川は生物の住めない死の川と化したものです。

懇談会の席に平林知事が来られ、「田淵君今日はえらい事を言ってくれた。なんぼ金がかかると思つ。」と言われたが、私達は被害者です。是非お願い致しますと一生懸命お願い致しました。

「まあ、なんとかして考えてみよう。」との知事さんの返事に、側に居た吉田県議が「田淵さん、これで見通しがついた、後は自分が一生懸命頑張るから。」と云つて非常に喜んでくれました。

其の後の環境関係の会合の時、田淵さんが切々と訴え知事の心をつかみ鉾害対策事業が実施される事に

なつたと紹介されました。

この年の十二月、島根県津和野の鉾害地の土地改良の現場を吉田県議・県振興局の係長・改良普及所主任技師・岩美町産業観光課長・岩常部落の推進委員で視察に行きました。この事業は岩常部落だけでなく小田川流域全体で進めるべきだと

の県議の提案があり、その方向で進める事になりました。其の後、小田川流域の土地改良の推進委員となり、改良区設立後は理事となり農業委員会に選出される事となった。

初めて農業委員となつた最初の視察研修は、富山県の神通川流域の鉾害対策事業の土地改良の現場でありました。一面の水田に赤土が客土されていました。それから二十六年、農業委員としてくるくる変る農政に

振り回されながら今日に及んでいます。今では小田川流域百ヘクタールの美田が完成され、小田川も鮭が遡

上する迄に回復致しました。

だが農業は衰退の一途をたどっている様に思われてなりません。今石油の価格が高騰しておりクリーンエネルギーとしてバイオ燃料が話題になっております。「バイオ燃料技術革新協議会」が設立され生産コストを一リットル四十円まで下げる計画を策定中であり、温暖化に繋がらないエネルギーとして注目されています。国策として進められれば減反も解消されかすかな光が見えてきたようにも感じられますが、それまで持ちこたえられるか否か踏ん張りどころではないでしょうか。